

平川市の交通安全対策に関する一般質問 質疑応答のポイントと今後のイメージ

～ 通学路交通安全プログラムの充実と、市全体の交通安全対策の強化に向けて ～

1 平川市通学路交通安全プログラムの進捗状況

議員の質問（主な内容）



- 通学路安全推進会議の開催や合同点検の進捗は？
- 今後の具体的な開催時期は？
- 対策箇所一覧表の更新は？
- 対策効果の確認方法は？
- 教育要覧への掲載は？

教育長の答弁（主な内容）



- 先般、推進会議を開催し、規約を改正。
- 会議は**年1回開催**。
- 合同点検は**おおむね年1回**（雪解け後の**3月中**をめどに実施）。
- 保護者等からの情報を基に**対策箇所一覧表を毎年更新**。
- 現地確認や保護者アンケートで対策効果を把握・検証。
- プログラムや一覧表は市HPのほか**教育要覧にも掲載し、周知**。

2 今後の取組（議員の提案と市の見解）

議員の提案（平川市全体の交通安全プログラム）

- 1 総務部が主導し、警察・道路管理者等と合同点検を実施し、ハード・ソフト対策を立案。必要に応じて年次計画・予算化。
- 2 危険箇所図・対策一覧表を**毎年市HPで公表**し、対策や進捗状況を市民に周知。
- 3 対策後にアンケート等で効果を把握・検証し、不十分な場合は改善して充実を図る。

市長の答弁（主な内容）



- これまでも総務部が窓口となり、警察・道路管理者等と連携して対応。
- 市が対応できる箇所は即時対応。国・県による対応が必要な箇所は改善要望を実施。
- 今後は総務部もプログラムに参加し、さらに情報共有を強化。
- 市HP等で危険箇所の結果や進捗状況を公表する。
- 対策効果の個別検証は難しいが、市民アンケート等で調査、検証する。

3 通学路安全推進会議の体制と年間スケジュール（今後のイメージ）

1 会議の体制（規約改正後）



2 年間スケジュール（今後のイメージ）



4 交通事故発生危険箇所における事故事例と対策

某市道 十字路交差点 (事例)



見通しは良いが一時停止違反が多く、事故が発生

主な対策 (例)

- 一時停止線の強調 (路面表示の工事)
- 信号機の設置 (難しい場合あり)
- 交通指導隊・PTAによる交通整理
- ハンプ (道路の隆起) 設置
- 速度抑制の路面塗装・ポール設置
- 通勤・通学時間帯の規制やゾーン30
- 自動ブレーキ機能付き車の普及促進
- 国・自動車メーカーへの要望

5 交通指導隊の役割と課題

役割・機能

- 交通整理への協力
- 安全運転・安全通行の指導
- 交通安全の普及活動

現状

- 定数 39 名
- 現状 21 名

今後の対策 (市・協会で検討)

- 危険箇所での巡回・交通整理の強化
- 活動に対する補助金・日当の見直し
- 新たな担い手の確保



6 市民への情報提供と対策効果の検証

情報提供

- 危険箇所マップや対策一覧表を市HPで公表
- 対応済みの箇所も含めて掲載
- 学校だよりや教育要覧でも周知



効果の検証

- 保護者・地域へのアンケート実施
- 通学路は学校・家庭・地域で連携
- 通学路以外の事故箇所は長期総合プランの中で調査・検証



最終的な目標

PDCAサイクルの徹底により、交通事故ゼロの安全・安心な平川市を目指す

通学路の安全確保

市全体の交通安全対策の強化

関係部署の連携強化

市民とともに取り組む